

SPF 豚農場認定事業の進捗状況

日本 SPF 豚協会事務局 高橋吉男

SPF 豚農場の認定制度の制定は、かねてから日本 SPF 豚協会の懸案であった。平成4年4月、日本 SPF 協会会長は「SPF 豚農場認定制度についてのお願い」を日本 SPF 豚研究会会長におこなった。これに対して、同年10月、日本 SPF 豚研究会会長は「SPF 豚農場認定基準制定に関する意見」を日本 SPF 豚協会会長に答申した。この答申を受けて、日本 SPF 豚協会は、「SPF 農場認定基準策定委員会」を結成し認定基準の検討を開始した。平成5年3月に至り「SPF 豚農場認定規則」を決定した。その後、各生産ピラミッド選出の7委員、SPF 豚協会の2委員及び学識経験者の5委員で SPF 豚農場認定委員会を結成した。同時に各生産ピラミッドにおいて CM 認定委員会が結成され、認定作業が進められた。

第1回 SPF 豚農場認定委員会は平成6年8月に開催され、11の GP 農場を認定した。その後平成7年8月までに計5回の認定委員会が開催された。これまでに15の GP 農場、86の CM 農場、合計101農場が認定された。

(1) 認定農場の内訳

1) GP 農場

A) 住商飼料畜産株式会社生産ピラミッド

- ① 鬼怒川農場
- ② 丸森農場
- ③ 九州農場

B) ハイコープ SPF 豚生産ピラミッド

- ① 全農東日本原種豚場
- ② JA 長野経済連 SPF 種豚センター
- ③ 秋田県連 SPF 種豚場
- ④ 愛媛県経済連野村種豚増殖センター
- ⑤ 愛媛県経済連広見種豚増殖センター
- ⑥ 熊本県大津原種豚センター
- ⑦ JA 長崎県五島種豚供給センター

C) 株式会社シムコ生産ピラミッド及び伊藤忠飼料生産ピラミッド

- ① 館山事業所
- ② 鶴田事業所
- ③ 岩出山事業所

D) 日本農産工業株式会社生産ピラミッド

- ① 株式会社ノーサンエびのファーム

E) ホクレン生産ピラミッド

- ① ホクレン農業協同組合
滝川スワインステーション
繁殖母豚総数は約8,200頭である。

2) CM 農場 (表-1)

86農場、繁殖母豚数は約30,000頭である。

A) 一貫経営農場は79農場で、繁殖母豚総数は約25,000頭である。

この中には新規に SPF 農場を開始し、肉豚出荷を始めてから3年未満のため生産成績での評価が出来ないので防疫管理基準およびヘルスチェック基準により認定された仮認定農場が8農場含まれている。

表1 生産ピラミッド別認定CM農場

ピラミッド名	農場数	母豚数	平均
シムコ	39	18,064	463
〃(肉豚農場) 年間出荷頭数	3	(51,000)	(17,000)
住商飼料畜産	29	7,688	265
全農	13	3,100	221
日本農産工業	2	1,074	537
合計	86	29,926	345

B) 肥育用素豚生産専門農場は4農場で繁殖母豚総数は4,900頭である。

C) 肉豚肥育専門農場は3農場で、年間の肉豚出荷頭数は51,000頭である。

3) 認定農場の分布(表-2)

GP農場とCM農場を合わせたものである。農場数では関東が最も多いが、小規模生産者が多い事が分かる。

一方繁殖母豚の頭数では九州、東北が多い。九州、東北は1農場当たりの繁殖母豚数も多く特に九州は全国平均の倍以上の頭数である。

表2 地域別認定農場数と母豚数

地域	農場数	母豚数	農場平均
北海道	3	532	177
東北	26(2)	12,538	522
関東	35	8,547	244
甲信越	9	1,350	150
中部	1	300	300
中四国	11	2,511	228
九州	16(1)	12,330	822
合計	101(3)	38,108	388

() 肥育農場数

(2) 認定農場の生産成績

CM農場の認定は、

認定規則 [II]

第15章 CM農場認定のための総合評価

「CM農場は高い生産性の確保と、高品質の豚肉生産を最終目標とするものであるから、SPF豚農場としての認定の可否は、生産システムと生産成績、及びCMヘルスチェックの結果を総合的に評価して決定する。」

と定めてあるように、高い生産性がSPF養豚の大きな目標となっている。

そのため、生産成績の評価はSPF豚農場認定の最も重要な点である。

1) 一貫経営の生産成績(表-3)

各項目の数値は農場毎にばらばらであるが、平均値と基準値と比較すると、

事故率では0.7%下回り、

離乳頭数は1.2頭上回る。

計算上の商品化頭数では基準値を1頭上回る。

1腹当たりの子豚数が増えると仕上がり頭数は増えるが、同時に事故率が増加する事を示している。

上位25%の農場の平均をみると、

離乳頭数 24頭/母豚/年

表3 CM認定農場の生産成績

(一貫経営)

	離乳頭数	飼料要求率	事故率	更新率
最高	25.3	2.91	0.9	0
最低	19.7	3.92	6.3	46.5
平均	22.2	3.28	2.7	25.3
上位25%	24.0	3.10	1.5	13.2
基準値	21.0	3.30	2.0	30.0

農場飼料要求率 3.10
 離乳後事故率 1.5%
 更新率 13.2%

とすばらしい成績でSPF養豚の持つ潜在的な力を示している。

2) 肥育用素豚生産専門農場の生産成績(表-4)

事故率は一貫経営と大差ない。これは育成豚の事故が若い子豚に集中しているためと思われる。しかし、離乳頭数では基準値を1.6頭上回り、計算上の仕上がり頭数では基準値を1.38頭上回る。

3) 肉豚肥育専門農場の生産成績(表-5)

肥育経営では輸送と組み替えのストレスによる事故を予想し、基準値を2.5%と高く設定したが生産成績ではやや下回った。

なお、肥育経営の飼料要求率についてはSPF豚農場認定基準細則を策定時、肥育経営の飼料要求率についてのデータが不足していたため、暫定的に、

導入体重 30kg
 出荷体重 110kg
 飼料要求率 3.00

とし、データを集め早い時期に基準値を見直

表4 CM認定農場の生産成績
 (肥育用素豚生産専門農場)

	離乳頭数	事故率	更新率	農場数
平均値	22.6	2.8	29.5	4
基準値	21.0	2.0	30.0	

表5 CM認定農場の生産成績
 (肉豚肥育専用農場)

	飼料要求率	事故率	導入体重	出荷体重	農場数
平均値	3.2	2.3	44 kg	115 kg	3
基準値	3.0	2.5	30 kg	110 kg	

す事としていた。

認定作業の進展にともない導入体重と出荷体重により飼料要求率が大きく変動する事が判った。早急に導入体重と出荷体重から飼料要求率を換算する表を作成し、それに基づいて今後の認定を行う事とし換算表の作成作業に入った。

今回の認定に当たっては対象農場の肥育成績が

導入体重 44kg
 出荷体重 115kg
 飼料要求率 3.20

であった。

これから、生時からの肉豚飼料要求率を推定し、それをもとにさらに農場飼料要求率に換算すると3.20となった。そこで、CMヘルスチェックの成績等を勘案して今回は認定する事とした。

3) 肉豚1頭当たり薬品費の内訳(表-6)

肉豚1頭当たりの薬品費は36円というほとんど使用していない農場から、基準ぎりぎりの598円使用している農場まで非常にばらついている。

平均では350円弱で、60%の農場が350円以下であった。

表6 肉豚1頭当たり薬品費使用の内訳

薬品費/肉豚	農場数	平均金額
100円未満	2	61円
100円~199円	10	154円
200円~299円	15	242円
300円~399円	21	341円
400円~499円	11	463円
500円~599円	12	563円
平均	71	342円
最低		36円
最高		598円